

実施事業所名：特定非営利活動法人フトゥーロ LD発達相談センターかながわ 児童発達支援事業所

自己評価実施日：令和5年4月30日

		チェック項目	はい	中間	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			運動専用のスペースはないものの、活動内容に応じて小さな教室と大きな教室を使い分けている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			法定人数に加えて、2名の加配で届け出ている。6人で行うグループでは4人のスタッフで行っている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		建物自体が古いため、変更の難しい面が多いが、赤ちゃん連れの方は2階で行うなど移動の負担が少なくなるよう工夫している。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			各自が、年間目標（深めたい分野や実践）を立て、それを皆で共有し、次の年に振り返りを行っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			支援計画に書かれたコメントなども、複数のスタッフで共有し、改善につなげている。令和4年度から自由記述欄を大きくし、様々なご意見をあげてもらいやすくした。（アンケートは無記名）
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	行っていない。
	⑧	職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			年に1回、全員のスタッフが集まって行う研修は、コロナ禍ではあったが令和4年度も行った。スタッフが外部研修への参加した場合の参加費の補助も行っている。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			発達水準や認知特性を踏まえた個別指導計画をたてるために指導開始や後期に、田中ビネー、SM 社会性能力検査、WISC-IV、KABC-II、LCスケール等を公認心理師や臨床心理士の資格があるスタッフが実施している。
適切な支援の提供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			毎回の終了後のミーティングに加えて、年に3～4回プログラム作成のためのミーティングを行っている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			対象の子供の状況や成長に合わせ個別支援計画の見直しを年度に2回行っている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長期休暇の過ごし方についても、面談などで助言を行い、また家庭の状況や親御さんの希望に合わせた宿題も作成している。また面談にはオンライン会議アプリも積極的に取り入れ、来所できない方へのフォローも行った。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別と集団を適宜組み合わせさせて支援計画を作成しているか	○			同年齢の児の個別指導を同時間に設定し、後期にはミニ集団指導の時間をとっている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			各プログラムの進行担当より、その日の流れを確認してからスタートしている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			支援終了後の振り返りは、リーダースタッフを中心に各日45分程度行っている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			書式は記入しやすさと確認しやすさを基準に年度ごとに見直している。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○		相談事業所からの要請があったケースでは電話で対応している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか		○		地域との交流は行っていない。子育て支援拠点（十日市場；いっぽ）との交流はある。

関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか		○		相談支援事業所とのつながりは少ないが、セルフプラン作成に関しては親御さんを支援している。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			保護者が希望する場合は電話連絡または訪問をし、在籍園との関係機関連携も積極的に行った。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医と連絡体制を整えているか				対象児なし
	㉓	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか				該当ケースなし
	㉔	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	会合に参加できるスタッフを配置できなかった。
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			定期的に保護者懇談会や個別面談の時間を設けている。又必要に応じ子育て相談等を追加で行い、個別的な配慮を行っている。
	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			親御さん同士の交流の場でもある保護者会では、お子さんの様子を報告するだけでなく、子育て支援の観点から様々な情報を提供することも心掛けている(年齢に応じた発達の課題など)
保護者への説明責任等	㉗	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか		○		利用時、指導開始時、又変更があった場合その都度口頭又は書類で伝えている。実費の徴収を行う場合も、内訳や納入状況を書面でやり取りしている。
	㉘	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			グループの懇談会の場だけでは対処しきれない場合には、個別に教育相談の場を設けている
	㉙	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		個別指導のみでご利用のご家庭からは「もっと、他の保護者との交流の場が欲しい」という回答が毎年上がるものの、難しいことが多い。グループ指導に関しては、保護者会でそういったニーズにも応えるように努めている。
	㉚	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			毎年度、苦情の窓口の周知が不十分とのアンケート結果になるため、契約時に苦情窓口(横浜市)の周知を意識している。
	㉛	定期的に会報等を発行し、活動概要は行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			グループごとに懇談会で活動経過を書面で配布。また年3回のニュースレターを配布している。
	㉜	個人情報に十分注意しているか	○			電子データ、ファイル等を外部に持ち出さない事、紙のデータは原本を閲覧し、コピーを取らないことを徹底し、職員にも、毎年度誓約書(情報の取扱いについて)を記入してもらっている。
	㉝	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		○		聾話者の保護者に対して FAX、メール等での対応を行っている。
非常時等の対応	㉞	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		緊急時のマニュアルは整備しているが、保護者への周知までは行き届かなかった。昨年度からの引き続きの課題。
	㉟	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			すべてのお子さんが必ず年1回は訓練に参加している。スタッフ向けの避難訓練の流れについての動画などを作成し、漏れがないように努めている。
	㊱	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			令和4年度は、虐待防止委員会主導のもと研修を行うことができた。
	㊲	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			事例集はできていないが、指導記録に記載し、その都度改善している。